



佐藤 愛華 (さとう あいか) 清水小 6年生

作品名:リトル・プリンセス -小公女-

図 書:リトル・プリンセス -小公女-

このお話は、富豪の娘だったセーラが、ある日を境に、一気に転落、雑用係としてこき使われる生活に。しかし、またある日を境に大富豪となる、セーラの日々を描いた物語です。

私は、このお話を、何回も何回も読んでいます。

内容も覚えているので、ちょっとした絵本位の量なら、物語として描けると思います。

それでも、何回も読んであきません。

それどころか、「また読みたい!」と思います。

理由は三つ。

一つは主人公、セーラにあります。

セーラは、何があっても正義を求め、優しさと、「〇〇のつもり」になることを忘れません。

自分が貧しい時でも、ポジティブに、自分が王女さまのつもりで、人に優しくし続けるのです。

私ができるかと聞かれたら、できるとは言えません。でも、できないとも言えません。

なぜなら、前向きでいること、何かのつもりでいることは、自分では、日常的にやっていると思います。

でも、セーラのように、自分が空腹で、やっとパンを六つ手に入れて、他に空腹な人がいた時、自分の持っているパンのうち五つをあげられるでしょうか。

あげる、とも言えます。

なぜなら、私はひどく少食だからです。パン一つでじゅうぶん、足ります。

でもそれは、一日何も食べていなかった時の話。

二日も三日も食べていなかったら。

たぶん、あげられません。

いくら少食でも、その時はもう、たえられないでしょうから。

私が何回読んであきない理由、二つ目は、セーラと性格が似ているからです。

空腹の時、パンはあげられなくとも、他に似ている所があるのです。

さきほどかいたように、ポジティブ思考で、何かのつもりになることはもちろん、

他に、少しメルヘンチックな所が似ています。

セーラは、人形は、人間がいない間に動いたり、遊んだりしていると信じています。

私も、少なくとも4年生までは、心の底から信じていました。

今は、心のどこかでひそかに信じています。

私が、何回読んでもあきない理由、三つ目。

これは、他の二つの何より、「あきない理由」になっています。

それは、元気が無い時に読むと、元気になれるからです。

元気が無い時、これを読むと、不思議と元気になります。

ところで、さきほどから、ポジティブだの、前向きだの書いていますが、自分がそんなポジティブ思考になったのは、この本を読んでからでした。

それまで、引っ込み思案で、はずかしがり屋だった私ですが、この本を読む度、成長できた気がします。

そんなこんなで、何回も読んできたわけですが、これからもきっと、あきずに何度も読み続け、最終的に、自分の子供に読ませるんだと思います。